

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成29年8月10日

【四半期会計期間】 第99期第1四半期
(自 平成29年4月1日 至 平成29年6月30日)

【会社名】 旭ダイヤモンド工業株式会社

【英訳名】 Asahi Diamond Industrial Co., Ltd.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 片岡和喜

【本店の所在の場所】 東京都千代田区紀尾井町4番1号

【電話番号】 03-3222-6311(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役管理本部長 鈴木 徹

【最寄りの連絡場所】 東京都千代田区紀尾井町4番1号

【電話番号】 03-3222-6311(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役管理本部長 鈴木 徹

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)
旭ダイヤモンド工業株式会社 大阪支店
(大阪市淀川区宮原三丁目4番30号)
旭ダイヤモンド工業株式会社 名古屋支店
(名古屋市中区葵一丁目16番34号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第98期 第1四半期連結 累計期間	第99期 第1四半期連結 累計期間	第98期
会計期間	自 平成28年4月1日 至 平成28年6月30日	自 平成29年4月1日 至 平成29年6月30日	自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日
売上高 (百万円)	10,974	10,587	42,024
経常利益 (百万円)	637	887	2,945
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 (百万円)	486	688	2,487
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	510	892	2,649
純資産額 (百万円)	55,532	57,802	57,288
総資産額 (百万円)	70,849	72,556	70,682
1株当たり四半期(当期) 純利益金額 (円)	8.58	12.36	44.34
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)			
自己資本比率 (%)	76.8	78.1	79.4

(注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式がないため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社及び当社の関係会社が営む事業の内容について重要な変更はありません。また、主要な関係会社に異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ(当社及び連結子会社)が判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第1四半期連結累計期間における国内経済は、緩やかながらも景気持ち直しが見られ、企業収益は堅調に推移しており、雇用環境が良好なことから個人消費も回復傾向にあります。世界経済においては、米国では雇用情勢の改善が続いているため、個人消費は底堅く推移し、欧州でも製造業に堅調な回復が見られ、景気をけん引する状況にあります。

このような状況のもと、当社グループの販売構成比が高い電子・半導体業界では、メモリや車載向け半導体の需要が増加し、セラミックコンデンサーなどの生産も増加したことから、関連工具の販売は増加しましたが、電着ダイヤモンドワイヤの販売が減少したことにより、全体では前年同期より減少しました。一方、輸送機器業界では自動車の生産台数が微増となり、関連工具の販売は前年同期より増加し、機械業界及び石材・建設業界においても関連工具の販売は前年同期より増加しました。

これらの結果、当第1四半期連結累計期間の業績におきましては、連結売上高は105億87百万円(前年同期比3.5%減)、営業利益は7億95百万円(前年同期比3.8%減)となりました。また、経常利益は前年同期において計上した為替差損が発生しなかったことから8億87百万円(前年同期比39.2%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は6億88百万円(前年同期比41.6%増)となりました。

(2) 財政状態の分析

(資産)

当第1四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ18億74百万円増加し、725億56百万円となりました。主な変動要因は、現金及び預金の増加19億5百万円、有形固定資産の減少3億3百万円、投資有価証券の増加2億28百万円であります。

(負債)

当第1四半期連結会計期間末の負債は、前連結会計年度末に比べ13億59百万円増加し、147億53百万円となりました。主な変動要因は、支払手形及び買掛金の増加4億49百万円、賞与引当金の増加4億38百万円であります。

(純資産)

当第1四半期連結会計期間末の純資産は、前連結会計年度末に比べ5億14百万円増加し、578億2百万円となりました。主な変動要因は、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上6億88百万円、剰余金の配当による減少3億34百万円であります。

この結果、自己資本比率は78.1%となり、1株当たり純資産額は1,016円86銭となりました。

(3) 経営方針・経営戦略等

当第1四半期連結累計期間において、当社グループが定めている経営方針・経営戦略等について重要な変更はありません。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(5) 研究開発活動

当第1四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は、4億38百万円であります。なお、当第1四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	190,300,000
計	190,300,000

【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成29年6月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成29年8月10日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	55,700,000	55,700,000	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数 100株
計	55,700,000	55,700,000		

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成29年4月1日～ 平成29年6月30日		55,700,000		4,102		7,129

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(平成29年3月31日)に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成29年6月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 3,300		
完全議決権株式(その他)	普通株式 55,540,700	555,407	
単元未満株式	普通株式 156,000		1単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	55,700,000		
総株主の議決権		555,407	

(注) 1 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、株式会社証券保管振替機構名義の株式が300株含まれております。また、「議決権の数」欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数3個が含まれております。

2 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式3株が含まれております。

3 「単元未満株式」欄の普通株式には、株式会社証券保管振替機構名義の株式85株が含まれております。

【自己株式等】

平成29年6月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 旭ダイヤモンド工業株式会社	東京都千代田区 紀尾井町4番1号	3,300		3,300	0.01
計		3,300		3,300	0.01

2 【役員 の 状況】

平成29年6月27日の第98回定時株主総会終了後開催の取締役会において、下記の通り一部の取締役の役職の異動を決議しております。

新役名及び職名	旧役名及び職名	氏名	異動年月日
取締役 (海外事業本部長)	取締役 (海外事業部担当)	藍 敏 雄	平成29年7月1日
取締役 (生産技術本部 技術統括兼 千葉鶴舞工場長)	取締役 (千葉鶴舞工場長)	谷 口 和 昭	平成29年7月1日
取締役 (海外事業本部 中国・台湾統括)	取締役 (中国統括)	萩 原 利 昌	平成29年7月1日

第4 【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間(平成29年4月1日から平成29年6月30日まで)及び第1四半期連結累計期間(平成29年4月1日から平成29年6月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、あると築地有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成29年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	14,916	16,821
受取手形及び売掛金	10,846	10,909
有価証券	360	295
商品及び製品	2,313	2,343
仕掛品	1,480	1,545
原材料及び貯蔵品	2,440	2,390
その他	1,011	1,171
貸倒引当金	208	206
流動資産合計	33,160	35,271
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	9,465	9,282
機械装置及び運搬具（純額）	7,070	7,100
土地	5,045	5,050
その他（純額）	1,551	1,397
有形固定資産合計	23,133	22,830
無形固定資産	123	116
投資その他の資産		
投資有価証券	12,569	12,797
その他	2,752	2,202
貸倒引当金	1,057	662
投資その他の資産合計	14,265	14,337
固定資産合計	37,521	37,285
資産合計	70,682	72,556

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成29年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,632	2,081
短期借入金	461	461
未払法人税等	208	327
賞与引当金	659	1,098
事業構造改善引当金	15	14
その他	1,986	2,325
流動負債合計	4,964	6,309
固定負債		
退職給付に係る負債	7,672	7,689
事業構造改善引当金	24	23
その他	733	730
固定負債合計	8,429	8,443
負債合計	13,394	14,753
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,102	4,102
資本剰余金	7,129	7,129
利益剰余金	41,836	42,191
自己株式	2	2
株主資本合計	53,065	53,420
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	2,958	3,024
土地再評価差額金	162	162
為替換算調整勘定	53	45
退職給付に係る調整累計額	23	17
その他の包括利益累計額合計	3,044	3,215
非支配株主持分	1,178	1,167
純資産合計	57,288	57,802
負債純資産合計	70,682	72,556

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)
売上高	10,974	10,587
売上原価	7,985	7,660
売上総利益	2,988	2,926
販売費及び一般管理費		
販売費	1,338	1,316
一般管理費	823	814
販売費及び一般管理費合計	2,162	2,131
営業利益	826	795
営業外収益		
受取利息	16	12
受取配当金	58	62
為替差益		1
持分法による投資利益	23	7
その他	14	12
営業外収益合計	112	95
営業外費用		
支払利息	2	1
為替差損	298	
その他	0	0
営業外費用合計	301	2
経常利益	637	887
特別利益		
投資有価証券売却益		25
特別利益合計		25
特別損失		
投資有価証券評価損	0	
投資有価証券売却損	0	
特別損失合計	0	
税金等調整前四半期純利益	637	913
法人税、住民税及び事業税	337	245
法人税等調整額	190	24
法人税等合計	147	221
四半期純利益	489	692
非支配株主に帰属する四半期純利益	3	4
親会社株主に帰属する四半期純利益	486	688

【四半期連結包括利益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)
四半期純利益	489	692
その他の包括利益		
其他有価証券評価差額金	476	65
為替換算調整勘定	340	37
退職給付に係る調整額	22	7
持分法適用会社に対する持分相当額	205	162
その他の包括利益合計	999	199
四半期包括利益	510	892
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	449	867
非支配株主に係る四半期包括利益	60	24

【注記事項】

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年6月30日)
減価償却費	815百万円	747百万円

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自 平成28年4月1日 至 平成28年6月30日)

配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成28年6月28日 定時株主総会	普通株式	850	15	平成28年3月31日	平成28年6月29日	利益剰余金

当第1四半期連結累計期間(自 平成29年4月1日 至 平成29年6月30日)

配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成29年6月27日 定時株主総会	普通株式	334	6	平成29年3月31日	平成29年6月28日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当社グループの事業は、ダイヤモンド工具の製造・販売並びにこれらの付随業務の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第1四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年6月30日)
1株当たり四半期純利益金額	8円58銭	12円36銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する 四半期純利益金額(百万円)	486	688
普通株主に帰属しない金額(百万円)		
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益金額(百万円)	486	688
普通株式の期中平均株式数(千株)	56,697	55,696

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式がないため記載しておりません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成29年 8 月 9 日

旭ダイヤモンド工業株式会社
取締役会 御中

あると築地有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 加 藤 且 行 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 厚 海 英 俊 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 神 山 敏 蔵 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている旭ダイヤモンド工業株式会社の平成29年4月1日から平成30年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間(平成29年4月1日から平成29年6月30日まで)及び第1四半期連結累計期間(平成29年4月1日から平成29年6月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、旭ダイヤモンド工業株式会社及び連結子会社の平成29年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2. X B R L データは四半期レビューの対象には含まれていません。